

これからも50年。医療の未来を見つめ、究める。



令和5年7月11日(火)に開催された座談会。左から、薬師神・大澤・羽藤・浅野・日浅。

今後の更なる発展、 新たな高みを目指す

羽藤 ● 1973年、新設医大の一番手として医学部が設立、3年後に附属病院が開設されました。当時の私は小学生。重信町という場所に医学部ができた幼心に強い印象が残っています。その後建物が増え、70年代後半には今に近い景観になりました。私が医学科11期生として入学した頃は、まだ創設時のゆったりした雰囲気が残っていました。それからほぼ40年間の変化を見続け、気がつけば古株になっています。

現在の医学部は附属病院とともに素晴らしい人材が揃い、良い研究や教育

ができ、世界に向けて発信できるまでに発展しました。愛媛県内で多くの卒業生が医療人として働き、地域医療で中心的な役割を担う状況です。今年には50周年という大きな節目を迎えます。その年に医学系研究科長・医学部長と、記念事業の実行責任者を務める責務の大きさを感じています。4つのワーキンググループを牽引する先生方と協力し、記念授業を成功に導きたいと考えています。

式典、講演会、祝賀会を開催

薬師神 ● 講演会・祝賀会ともにほぼ準備はできました。会場はANAクラウンプラザホテル松山で、南館4階のエメラル

医学部50周年記念事業

- 8月20日(日)
記念講演(市民公開講座)
医学部の歴史や最先端医療について8名の先生による講演
- 9月29日(金)
記念日イベント
在学生による将来展望発表、記念講演会等
- 10月7日(土)
記念式典・記念講演会・記念祝賀会
学歌斉唱、2名の先生による講演等
- 10月7日(土)
記念誌の発行、配布
詳しくは医学部創立50周年記念ウェブサイト



ドルームに288席、2階のサファイアルームにはオンライン観覧という形で240席、計528席を用意しています。その後の祝賀会も351席を確保。ただ新型コロナウイルス感染症対策上、着席制にしています。参加者の皆さんが楽しみにしている余興も盛りだくさん。当日のサプライズも期待してください。300名の方に招待状を送っていますが、一般同窓生もチケットでの参加が可能です。

羽藤 ● 久しぶりにお会いできる方が多く、非常に楽しみです。特に名誉教授の先生方に参加いただけたら嬉しいです。また須田正己先生(初代医学部長)が作詞された歌詞に、大橋裕一先生(前

座長・後世に残る記念事業ワーキンググループ長 羽藤直人

広報・市民公開講座ワーキンググループ長 浅野水辺

祝賀会ワーキンググループ長 薬師神芳洋

寄附・募金ワーキンググループ長 日浅陽一

記念誌発行ワーキンググループ長 大澤春彦

学長)が曲をつけた医学部創設歌が披露される予定です。そちらも楽しみです。

50年の歴史を網羅する 記念誌を発行

大澤 ● 記念誌を紙媒体で発行します。今回の記念誌は40周年記念誌からの最近10年間のみではなく、開設から50年の歩みについて、医学部の教育、研究、診療、組織、インフラなど、幅広く医学部に関することを記述します。さらに、愛媛県知事などの県内関係者、名誉教授、OB、在校生等にも寄稿していただいています。多くの資料も掲載しますので、思い出を振り返るのに役立つ記念誌になると思います。40周年記念誌が300ページでしたが、その1.5倍くらいのボリュームになる予定です。また、編集にあたって集めた資料は保存・整理してアーカイブ化する方針で進めています。

羽藤 ● ボリュームある記念誌ができそうに期待しています。記念式典での配布に向けて大澤先生をはじめ、編集委員の先生方、事務スタッフは大変な時期だと思います。アーカイブ化も賛成です。まずは紙媒体の完成を楽しみにしています。

特設Webサイトで 記念事業を広報

浅野 ● 昨年4月に本事業の広報窓口となる特設Webサイトを開設しました。医学部創立50周年記念Webサイトでは事業案内や医学部50年の歩み、寄附のお願いなどを公開、随時更新中です。また、記念ロゴマークを公募約70作品の中から選定しました。横断幕(重信キャンパス)、大型デジタルサイネージ(城北キャンパス)、新聞広告などで創立50年を広報しています。8月20日(日)には「医療の未来を見つめ、究める」をテーマに記念講演会(市民公開講座)を



いよてつ高島屋にて開催します。皆様のご来場をお待ちしております。

羽藤 ● 浅野先生にはワーキング長として迅速に動いていただき、専用ホームページの立ち上がりも早かったです。たくさんの方からホームページを見たとの声を聞いていますし、アクセス数も伸びています。創立50周年記念ホームページを閉める前には、実行委員会からのお礼の言葉を掲載し最終報告を行う予定です。

目標金額を達成し、 形に残る記念事業に

日浅 ● 当初の寄附目標額が途中から1億円から2億円に上がり、金額の大きさに頭を悩ませました。幸い、卒業生、元教員の方々や、大学職員、現教員、関連病院の先生から温かいご配慮とご支援を賜り、7月11日現在で7000万円近く集まっています。また、医学部同窓会や後援会にもご協力いただけることになっており、目標にたどり着けるのではないかと思います。大切なのは「みんなで50周年を祝おう」という機運

を、寄附という行為を通じて高めることだと思っています。いただいた寄附のもとに、卒業生、同窓会の活動にも貢献できる機能を持つ総合学習棟をはじめ、現在の学習室の改装、学生の部活動支援など、医学部全体に貢献できる支援基金として活用させていただくことになっておりますので、引き続き、一人でも多くの方々にご寄付のご協力をいただけると幸いです。

羽藤 ● 日浅先生のアクティブな活動により、たくさんの方々にご寄附いただいております。

ご寄附は税法上の優遇措置があり、寄附金控除の対象になります。個人で10万円以上、法人で50万円以上なら銘板にご芳名を掲示します。また、感謝状や農場生産物の贈呈もあります。ご寄附はオンライン決済可能です。こちらのQRコードから読み取ってご寄附いただければ幸いです。



次の10年につながるよう、 バトンをつなげる

羽藤 ● 医学部長・医学系研究科長の就任時に「人と人をつなぐ、現在と未来をつなぐ」というテーマを設定しました。医学を学び、研究し、教育することとは、人と人をつなぐことでもあるし、現在の医療は未来の医療にもつながっています。人と人がつながることで医学部と附属病院に一体感が生まれ、よりよい医療の提供や、研究成果のアピールにもつながることができます。

医学部は10年ごとの節目を大切にしています。今回の50周年という節目が次の60周年につながります。私も40周年の先生方からバトンを受け取って、50周年の責任者としてを今を迎えています。このバトンを60周年記念事業を行われる先生方にしっかりとつなげます。



快適で効率的な学習環境のために50周年記念総合学習棟も建設予定

